

2026 年 6 月 8 日から 13 日まで、フランス・ドーヴィルで開催された粒子線治療の国際学会「PTCOG (Particle Therapy Co-Operative Group)」に参加しました。

学会は、8～9 日に教育講演を中心とした Educational Program、10～13 日に研究発表を中心とした Scientific Program という構成で開催されました。特に Educational Program は、体系的に学ぶことができるため、これから粒子線治療を学ぶ若手医師や研究者に有意義なものでした。

Scientific Program では、欧米で普及が進んでいる陽子線治療に関する発表が多くを占めていました。一方で、重粒子線治療に関する発表では、欧米の研究者から活発な質問が寄せられており、世界的にも重粒子線治療への関心の高さを感じました。私自身も参加を通じて、欧州と日本の重粒子線治療施設では RBE モデルやビームアングルの考え方などに違いがあることを学び、大変興味深い経験となりました。

今回は、当院における膵癌に対する炭素イオン線治療の初期治療成績について e-poster 発表を行いました。将来は口頭発表など、さらに大きな舞台で研究成果を発表できるよう、今後も研究に励みたいと感じました。

開催地のドーヴィルは、パリから特急列車で約 2 時間の場所にあるフランス北部の美しい海辺のリゾート地です。夏には多くの観光客で賑わう街のようですが、学会期間中は気温が低く、地元の方々もライトダウンを着用しているほどでした。次回はぜひバカンスシーズンにも訪れてみたいと思いました。

また、初めてのフランス訪問ということもあり、学会の前後には少し時間をいただき、パリ市内を観光しました。凱旋門やエッフェル塔、オペラ座など歴史ある建築物を巡り、フランスの文化や歴史にも触れることができました。海外学会では、研究発表だけでなく、その国の文化に触れ、視野を広げられることも大きな魅力の一つだと感じます。

来年の PTCOG はバンコクで開催される予定です。今後も日々の診療と研究に取り組み、さらに良い成果を世界へ発信できるよう努力していきたいと思います。

